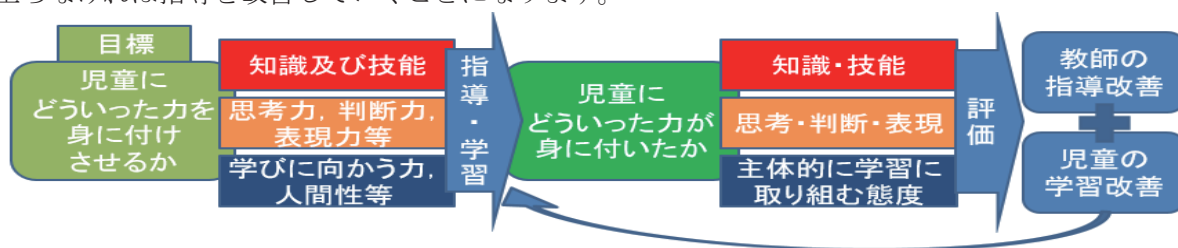


目指す姿を3観点で想定し 評価を指導の改善につなげる

POINT 1 「知識・技能」を動きの質的な変容で確認する

単元が終了したとき、児童がどのような力を身に付けることができているか、目指す姿を具体的に想定しておく必要があります。特に技能については、どのような動きを身に付けることで「概ね満足できる」姿とするのか曖昧なままでは指導も評価もできません。また、距離、回数、時間などの「記録」を向上させることは、児童の願いとして大事にしていきますが、記録の伸長のみで評価することは、身に付ける技能の定着を十分に評価しているとは言えません。記録を伸ばすための動きのポイントを理解しているか、動きの質的な変容が見られたかを観察し、評価していくことが大切です。そして、想定した姿に至らなければ指導を改善していくことになります。



POINT 2 「思考・判断・表現」を動きのポイントに基づく学習で評価する

児童は、「達成したい」、「解決したい」という明確な目標があれば、そのための手がかりを主体的に探ろうとします。動きのポイントについての資料と自分の動きと比較して課題を見付けることや、見付けた課題を解決するために運動の場を選んだり、動きを工夫したりすることが「思考力、判断力」となります。また、見付けたことや考えたことを友達などに伝えることなどが「表現力」となります。これらの力を高めるための学習活動を設定した上で、学習中の発言や授業後の学習カードへの記述等で評価し、指導の改善につなげます。

特に、言語活動を児童にとって必要感のあるものにするためには、次の3点を大切にします。

- ① 運動の行い方、動きのポイントの理解を促す資料の提示
- ② 課題を発見する手立ての用意（視点を明確にした教え合い、ICTの活用等）
- ③ 課題を解決するための場の設定（個に応じた効果的な運動ができる場等）

言語活動の場面を設定するだけでなく、言語活動の目的を明確にし、話し合うための材料を準備しておくことが肝要です。

POINT 3 「学びに向かう力、人間性等」の指導を計画的に行う

学習指導要領において、体育科の運動領域では、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容が示されています。単元を通して、その内容をいつ、どのように指導するのか、指導者が見通しをもって計画しておく必要があります。例えば、「順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をする」ことを、動きを高める学習を通じて、どこかの場面で指導しているからこそ評価することができます。とりわけ、「場や用具の安全に気を付ける」ことは、単元のはじめに必ず指導し、評価してください。

3学年

投の運動

体育科実践事例

単元名：「全身で、全力で、遠くに投げよう」

(C走・跳の運動に加えて指導した事例)

目指す動きを具体的に設定し、指導と評価を行う。



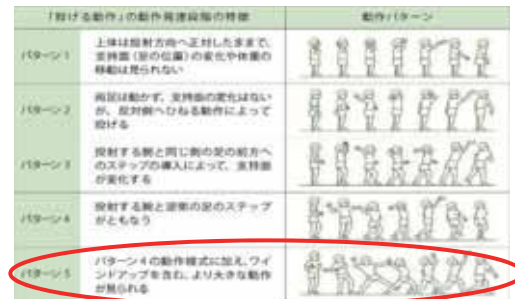
評価規準（学習活動に即した評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①投の運動の行い方を言ったり、学習カードに書いたりしている。 ②投げる腕と反対の足を踏み出し、胸を張り、腕を大きく振って投げることができる。 ③短い助走からステップするなど大きい重心移動から投げることができる。(4年)	①学習カードと自分の動きを比較し、動きの改善点を見つけている。 ②動きの改善点について、気付いたことや考えたことを友達に伝えている。(4年)	①自分の動きについての友達の意見を認めようとしている。(4年) ②運動を行う前に、場や用具の安全を確かめている。

※第3学年及び第4学年において継続して指導する単元のため、 は、第4学年で評価する計画。「走・跳の運動」のまとめりの中で、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価を計画的に設定することにより、本単元の評価の観点の精選を図った。

POINT1 目指す「投の運動」を質的に確認する

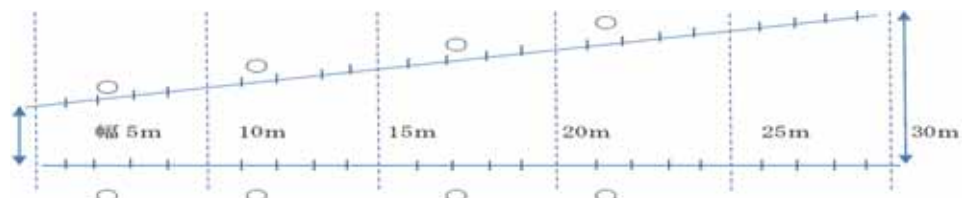
学習の成果は単に投げる距離の伸長だけでなく、動きの質の変容に表れるため、どのような動きを目指すのか想定しておく必要がある。そこで、本単元では、「幼児期運動指針」に示す投げる動きのパターンから、「パターン5」を「概ね満足できる姿」とした。つまり、「知識・技能」の②を図示したものが「パターン5」である。



幼児期運動指針ガイドブック（2013 文部科学省）より

POINT2 動きを高めるための言語活動を設定する

- ① 動きのポイントの理解を促す資料の提示
 - ・「重心の移動」、「踏み出した足を軸とした回転」、「胸の張り」、「大きな腕の振り」、「肘を高く上げる」を示したカードを掲示し、自分たちの動きと比較できるようにする。
 - ・「トン・トン・ビュン」のオノマトペと、資料とを組み合わせることで、動きのポイントの理解を深める。
- ② 課題を発見する手立ての用意
 - ・3人組で学習し、互いの動きのよい点や改善点を、見るポイントを分担して伝え合うように指導する。
 - ・教師が児童の投動作をタブレット端末で撮影し、児童同士の話し合いの場面で適宜視聴させる。
- ③ 課題を解決するための場の設定
 - ・児童が、自分の力に応じて繰り返し運動が行えるように下図の運動の場を設ける。



POINT3 共生及び安全の指導を計画的に行い評価する

- ・自分の技能とともに、ペアの技能の高まりも目標とすることで、互いの意見を認め合うなどの共生の価値について運動を通して気付くように指導し、学習カードの記述等から評価する。
- ・投げる前に「周りに人がいないか確認する」、「声をかける」、「ペアが自分を見ていることを確認する」ことを確実に指導し、安全に気を付けているか観察によって評価する。